

# 元名瀬小教諭

## 特別支援教育の実践録

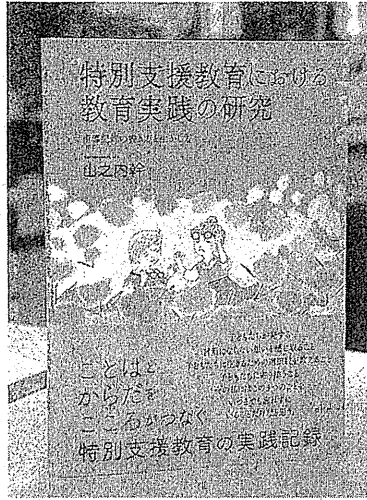
### 加治木養護、山之内さん刊

県立加治木養護学校の山之内幹教諭(54)が「特別支援教育における教育実践の研究」(批評社)を出した。奄美市の名瀬小学校勤務時代に記し学級通信で紹介した自作童話も掲載。現職教師や教職志望者向けの実践書だが、30年間の現場経験に基づく著書で、障がいを持った子どもたちとの寄り添い方を一般読者にも考えさせる一冊だ。



山之内幹さん

肝属郡串良町出身。琉球大卒、筑波大学院修了、教育学博士(福岡大大学院)。県立皆与志養護、名瀬小、県立響学校を経て現職。副題は「指導記録の書き方と生かし方」。本文の書き出しはこうだ。「教師にとって毎



著書「特別支援教育における教育実践の研究」

日が指導の実践、記録、分析、指導法の検討、そして新たな指導法の案出と試みの連続である」。そして、さまざま実践と経験を踏ま「智子の八月踊り」の題

えた教育上の留意点がつづられていく。閑話として盛り込まれたコラムは10話。自作童話もその一つ。「真智子の八月踊り」の題

で、奄美市名瀬の久保井博彦さん(67)と名瀬美術協会会長が描いた挿し絵とともに掲

載している。山之内さんは「特別支援教育に30年携わり生きてきたしるしを後進に残そうと思いついた。まえばがき、あどがき、監修者(吉川武彦・清泉女学院大学学長)の言葉、閑話だけでも読んでいただけらと思う」と話した。

A5判、171ページ。

1800円(税別)。(38813)6344  
問い合わせは電話03 批評社。